

作成日 平成28年4月24日

サークル名	病院のため地球のため 出来ることから少しずつ	発表者	新山 尚司
		リーダー	新山 尚司
部署	検査科	サブリーダー	箕岡 博
活動期間	開始:平成27年11月10日 終了:平成27年11月19日	メンバー	渡部 貢 須々井 尚子
会合状況	会合回数 11回 1回あたりの会合時間 30分		
所属長/推進メンバー		所見欄	
レビュー担当者	永澤副院長, 野田副部長		

テーマ

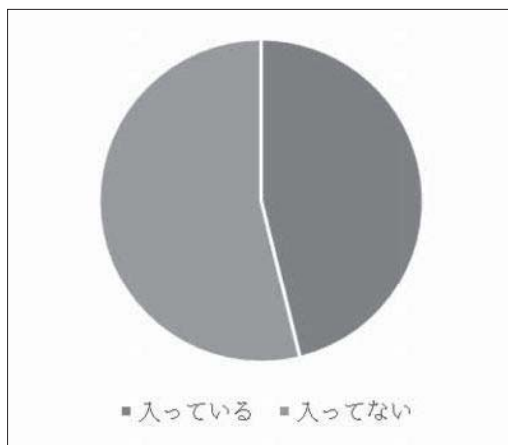
日直・当直時の節電

テーマ選定理由

拘束体制から当直 日直体制になり検査周辺機器 空調 照明等の時間外の使用が増大したため、節電できないかと。

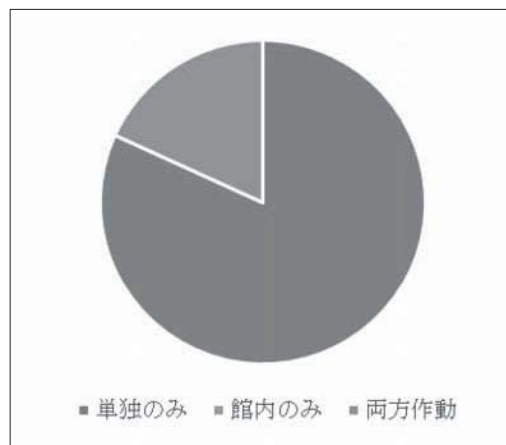
現状把握

日直・当直時ドライバスの電源



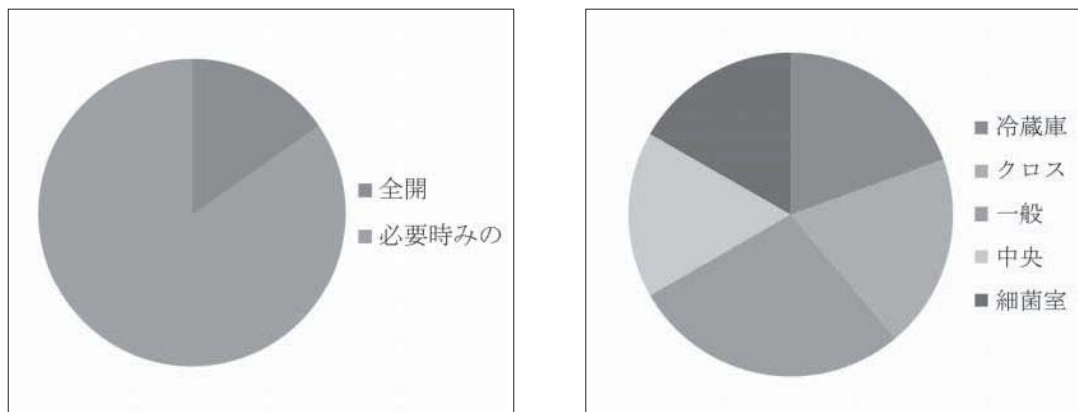
ドライバスの運用は電源ON OFFは日直・当直者でまちまちである

日直・当直時科内エアコンの使用



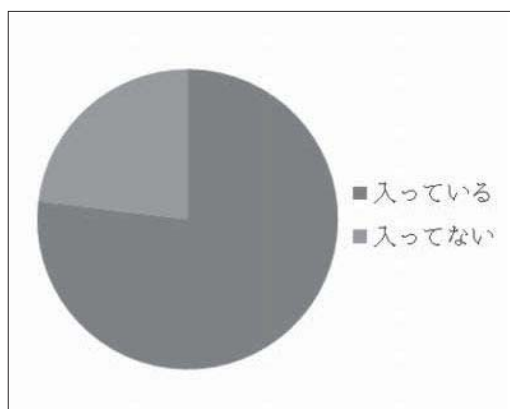
エアコン使用状況は、科内単独エアコンのみが多数である。科内のドアを閉めることで節電対応する事にした。

日直・当直時科内照明使用状況



日直・当直時の照明使用状況は必要照明のみが多数であるが,点灯箇所はバラバラである。ON OFF照明を決め,節電対応する事にした。

日直・当直時の遠心の使用状況



日直・当直時の遠心機使用状況はONが多数である。
遠心機は電源のON OFFが容易なため,使用しない時は電源OFFとし
節電対応とした。

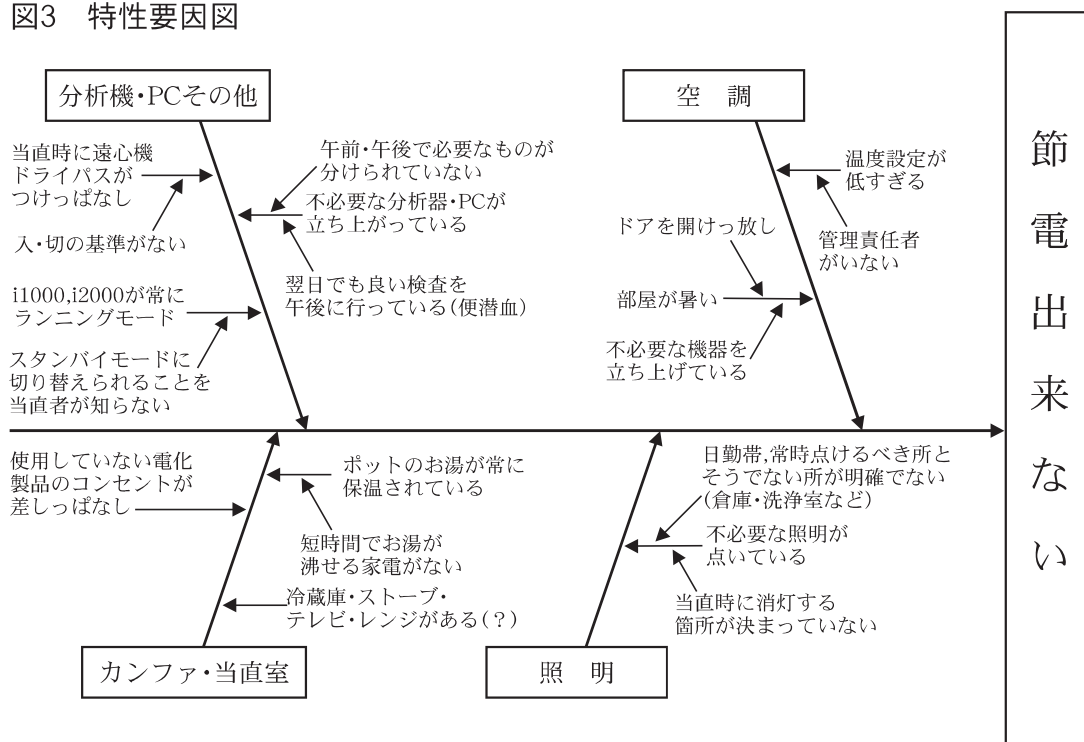
目標設定

- ・ 必要ない遠心機は電源を切りましょう(4台有ります)
- ・ 使用しないドライバスの電源は切りましょう
- ・ 必要ない照明は切りましょう(指定された照明のON OFF)
- ・ ドアはしめましょう

上記を行動とし,概ね90%以上の行動達成を目標とする

要因の解析

図3 特性要因図



重要要因解析

照明は日直・当直時のON OFFが決められていない。

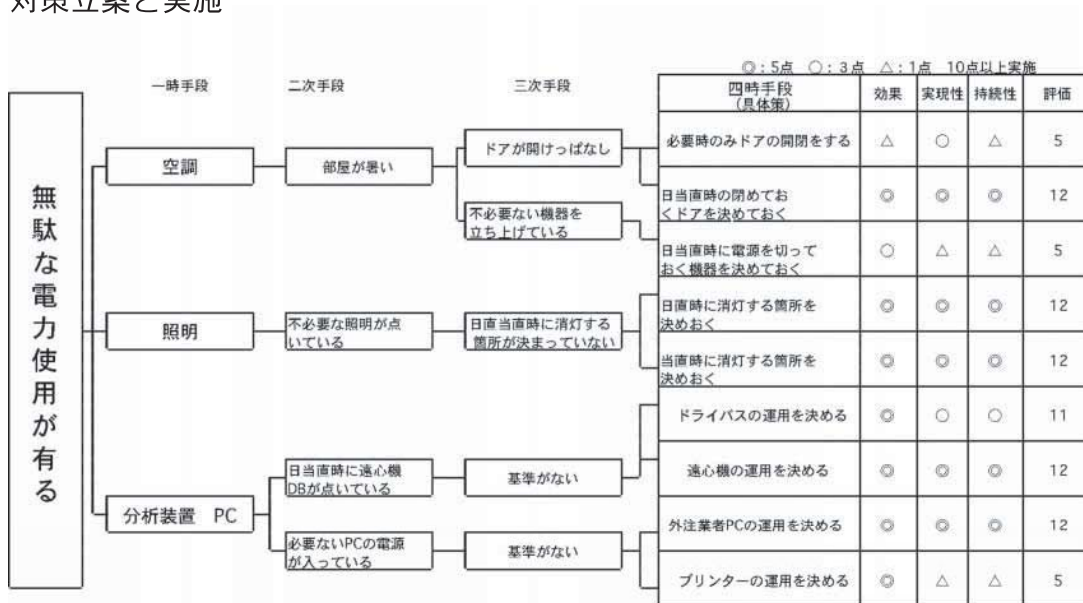
空調システム(エアコン)は科内エアコンを作動しているが,ドア,窓が開けっ放しであり,閉められていない。

使用しない検査周辺機器の電源がONの状態である。

外注業者のパソコンが日直・当直時には全く使用しないのに24時間電源がONになっている。

対策立案

対策立案と実施



対策実施

対策立案 照明

What	Why	Who	When	Where	How
尿検査 (奥側照明)	検査に必要な時間の 照明を切るため	須々井 新山	11月中旬に	検体検査室 (尿検査)	使用していない時 は切る
検体検査全体照明 (日当直時)	過剰な照明の使用を 減らすため	須々井 新山	11月中旬に	検体検査室	つける照明を決める
洗浄室照明	使用していないときは 照明を切るため	須々井 新山	11月中旬に	検体検査室 (洗浄室)	使用していない時 は切る
救急室通路照明	必要ない時は照明を 切るため	須々井 新山	11月中旬に	検体検査室	基準を決める

(救急室通路照明は医師 看護師の通路のため点灯することにした)

対策立案 空調(ドア)

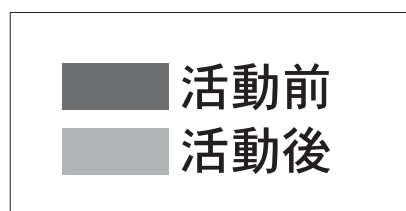
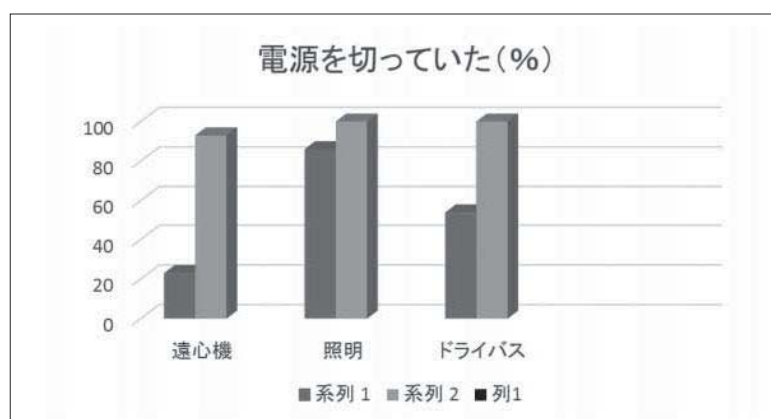
What	Why	Who	When	Where	How
検査科倉庫	冷気、暖気を逃がさないため	箕岡 新山	11月中旬に	検体検査室	使用時以外はドアを閉める
検査受付小窓	冷気、暖気を逃がさないため	箕岡 新山	11月中旬に	検体検査室	日直当直時にガラス窓を入れる
生理検査側ドア	冷気、暖気を逃がさないため	箕岡 新山	11月中旬に	検体検査室	日直当直時にはドアを閉める
注射室側ドア	冷気、暖気を逃がさないため	箕岡 新山	11月中旬に	検体検査室	日直当直時にはドアを閉める
検査コンピューター室 ドア	冷気、暖気を逃がさないため	箕岡 新山	11月中旬に	検体検査室	日直当直時にはドアを閉める
細菌検査室ドア	冷気、暖気を逃がさないため	箕岡 新山	11月中旬に	検体検査室	日直当直時にはドアを閉める

対策立案 検査周辺機器

What	Why	Who	When	Where	How
SRLパソコン	不必要な電気使用を避け 必要時以外切るため	渡部・担当者 新山	11月中	検体検査室	使用時間帯を決めON OFFマニュアル作成
BMLパソコン	不必要な電気使用を避け 必要時以外切るため	渡部・担当者 新山	11月中旬に	検体検査室	使用時間帯を決めON OFFマニュアル作成
ドライバス	必要時以外電源を切るため	渡部 新山	11月中旬に	検体検査室	使用時以外は電源を切る
高速遠心機	必要時以外電源を切るため	渡部 新山	11月中旬に	検体検査室	使用時以外は電源を切る
尿検査遠心機	不必要な電気使用を避け 必要時以外切るため	渡部 新山	11月中旬に	検体検査室	日直当直時使用して いない時は電源を切る
検体検査遠心機2台	不必要な電気使用を避け 必要時以外切るため	渡部 新山	11月中旬に	検体検査室	日直当直時使用して いない時は電源を切る

効果確認

検査科内の照明		ドライバスの電源	
常時つけている	1人	常時全部点灯している	0人
使用しない時は消す	9人	不必要な照明は消す	14人
気が付けば消す	1人		
常時消している	0人		
検査科内のドア		遠心機の電源	
常時開けっ放し	0人	常時つけている	1人
こまめに閉めている	13人	使用しない時は消す	12人
退出時に閉める	1人	気が付けば消す	1人



電源については全てにおいて90%以上達成した
 ドアの閉鎖については13人閉め,退出時には閉めるを含めると100%を達成した。

まとめと課題

節電行動運用開始前は節電に対する意識も低く,節電行動もほとんど取られていなかった。節電行動運用開始後は,徐々に節電行動も伴ってきた。それに伴い,節電意識も高まり,行動も自然と行える様になり,習慣化できたと思われる。今回のTQM活動は検査科の節電意識,無駄な電気を消す等の行動変化の向上に大いに貢献したと思われる。

今後の課題は,この習慣化をいかに継続して行くかに有り,注意喚起をしていきたいと思います。